北の大地からワイン県やまなしへの引っ越し

マジョ・ルチア
国際交流員
山梨県庁

今年の夏、私は北の大地・北海道から、富士山のふるさとである山梨県に引っ越しました。ここに住んでわずか数ヶ月の間に、私は地元の名所を発見し、素晴らしい人々に出会い、印象的な山々を登山してきました。

本記事では、特に私が山梨に興味を持った 3 つのことを紹介したいと思います。

おてんぐさん古墳: 眺めの良い古代のお墓

日本列島には、3 世紀から 7 世紀にかけて築造された古墳が点在しています。古墳のほとんどが文化保護の観点から観光客や考古学者の立ち入りが禁止され、何百年も手つかずのまま眠っているため、火星人が造ったお墓、お墓の中の内容が国家機密など、多くの陰謀の対象になっているのです。

北海道の古墳がゼロであるのに比べ、山梨県には 651 基の古墳があり、その多くが 5 世紀から 6 世紀ごろに築造されたものです。直径約 30m、高さ約 6m のおてんぐさん古墳は、県内最大の古墳で、丸い形と数千個の中石を使った外装が特徴です。

おてんぐさん古墳の所有者や建築年代も不明であり、非常に不思議な古墳です。
大宮神社の裏側にある半分隠れている道から 490m ほど登り、天狗山山頂に到着します。いくつもの石柱や祠に覆われた古墳は、まるで『はてしない物語』で出てくる賢くて丘ほどの大きいカメの「太古の媼モーラ」のようです。その巨大なカメを乗り越えると、さらに登山道は続きます。

さらに 1 時間ほど進むと、続いてきた鬱蒼とした森が消え、甲府盆地と背景にある富士山が現れます。古墳をなぜここに築造したか分かってきた気がします。

写真 1 .おてんぐさん古墳　**写真 2.**富士山と甲府盆地　**写真 3.** 祠や石碑

甲州勝沼ぶどうまつり: 山梨の収穫祭

打ち明けなければいけないことがあるのです。私は以前、ぶどうが非常に苦手でした。その形や食感が嫌いで、20 年以上、ぶどうとぶどうを食べる人に絶対近寄らないようにしてきました。それが、山梨県に引っ越してきて、一変しました。

久しぶりに食べたぶどうが、山梨が誇るシャインマスカットだったのです。種がなく、皮はしなやかな緑色で、驚くほど甘く、このシャインマスカットは私に新しい世界を見せてくれました。この新しい興味を探求することで、その月に開催される勝沼の「ぶどう祭り」に行ってみることにしました。

日本のワインの 4 割を生産する 80 以上のワイナリーがある山梨県は、まさに「ワイン県」と呼ばれるにふさわしいです。その山梨県東部にある勝沼は、明治維新の戦いの舞台となっただけでなく、日本で初めてぶどうが植えられたという伝説のある町です。勝沼では毎年 10 月、一年の収穫の喜びと自然の恵みへの感謝が込めた「甲州勝沼ぶどう祭り」が開催されます。地元のワインが無料で試飲できるほか、来場者には甲州ぶどう 2,000kg が無料で配られるなど、「分かち合い」の精神が貫かれています。ワインやぶどうの他にも、ワインに合う料理を販売する屋台が並び、ぶどうまつり限定のお守りの販売や、パフォーマンスも行われ、一日中楽しめるお祭りです。今年は、祭の新しい試みとして、地元の 20 以上のワイナリーを巡る「勝沼日帰りバス」の 1 日乗車券を 1,000 円で購入することができました。

夜に、地元の中学生は松明を持ちながら町内を一周した後、小山の中腹にある鳥居の形をした護摩木に火をつけます。この鳥居焼きは、ぶどう寺として知られている大善寺で行われた神事であり、江戸時代から続く伝統だと言われています。夜空を彩る花火と鳥居焼きが見事にマッチして、祭りは華やかに幕を閉じます。

写真 4.駅前にあった葡萄の木

写真 5. 購入したぶどう

写真 6.鳥居焼き

甲州印伝: 300 年の歴史を持つ職人の技

山梨県のお土産に悩んでいますか？そんな心配はご無用です。山梨の漆塗り鹿革製品である甲州印伝は、ご家族やご友人へのお土産に最適です。印伝は、財布、バッグ、名刺入れなど様々な革製品で、桜や菖蒲、山梨のシンボルである富士山などの模様が漆塗りで施されています。中でもトンボ柄の印伝は、トンボは前にしか飛べない昆虫であることから、商売繁盛の縁起物として人気が高い商品です。

戦国時代（1467-1568）に、軽くて丈夫、防水性に優れた印伝は、甲冑の装飾として広く用いられました。亀甲文様や菖蒲文様など、漆の装飾を施すことで生地自体の強度を高め、災厄や病気から身を守る象徴的な意味合いもありました。武田信玄も印伝のケースに鎧を収納していたと言われています。武士が印伝を愛用していたことから、やがて一般庶民にも鹿革製品が普及し、様々なデザインが開発されました。

1987 年、甲州印伝は経済産業省から「伝統的工芸品」に指定されました。かつては他の地域でも印伝が作られていたが、現在まで残っているのは山梨県の甲州印伝だけです。日本最古の印傳屋は、1710 年、甲州印伝の始まりといわれる 3 つの工房のうちの

1 つです。甲府駅から徒歩 15 分ほどの場所にある本店の 2 階には、甲州印伝の歴史を紹介する小さな博物館があります。

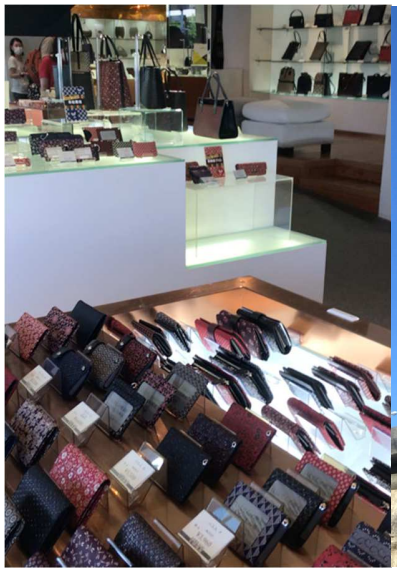
写真 7.印伝屋

写真 8.武田信玄の像

写真 9.印伝の名刺入れ

歴史ある函館から国立公園の知床まで、私は北海道のほぼ全域を探検してきました。そこで過ごした時間は、常に私の心の中の特別な位置を占めていますが、山梨県での次の冒険を楽しみにしています。数ヶ月間しか経っていませんが、山梨にはたくさんの魅力があり、私はまだ見つかってないもの・体験していないことがたくさんあるでしょう。歴史が深く、果物が美味しく、職人技が光る山梨県の旅にお付き合いください。